

別表1

## 研修カリキュラム表

事業所名：有限会社 日本メルツ

平成30年度

科目の内容等				評価方法
科目の細目	時間	「修了時の評価ポイント」番号	実施方法	
<b>1 職務の理解（6時間40分）</b>				
多様なサービスの理解	3時間20分	—	介護保険サービスや介護保険以外のサービスの概要を講義形式で説明する。	評価なし
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間20分	—	視聴覚教材等を活用し、ケアマネジメントを基に、多職種が連携して行うサービスの全体像を説明する。介護職がどのような環境で、どのような仕事を行うのかワークシートにまとめ、話し合う。	
<b>2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間10分）</b>				
人権と尊厳を支える介護	5時間00分	2-②	人権と尊厳の考え方について説明し、事例を通し人権と尊厳を支える介護について討議する。また、人権を守るための各制度について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
自立に向けた介護	4時間10分	2-①	自立の概念や介護予防について説明した上で、事例を通し、守るべき自立支援の視点について討議する。	
<b>3 介護の基本（6時間40分）</b>				
介護職の役割、専門性と多職種との連携	1時間40分	3-①、3-②	介護職の役割や、医療職など多職種との連携の必要性について説明する。具体例を通して、家族による介護と専門職による介護の違いについて討議する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護職の職業倫理	1時間40分	3-③	職業倫理の重要性を説明し、場合に応じた関わりの際の留意点について話し合う。	
介護における安全の確保とリスクマネジメント	1時間40分	3-④	介護におけるリスクを説明し、緊急対応の重要性を理解する。事故発生時の対応について説明する。	
介護職の安全	1時間40分	3-⑤	介護職の健康管理の重要性を説明し、ストレスマネジメントについて話し合う。	
<b>4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間10分）</b>				
介護保険制度	5時間00分	4-①、4-②、4-③	介護保険制度創設の背景及び目的を通し理念を説明する。財源構成やケアマネジメント等、制度の仕組みや事業者指定の流れについて説明する。サービスの種類と内容について説明し、事例を通し、どのサービスをどのように活用すべきか討議する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
医療との連携とリハビリテーション	1時間40分	4-⑤	介護職が行う医行為や、医療との連携、リハビリテーションについて説明する。	
障害者自立支援制度及びその他制度	2時間30分	4-②、4-④	障害者福祉制度の理念について説明する。障害者自立支援制度の仕組みや個人の権利を守る諸制度について説明する。	
<b>5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間40分）</b>				
介護におけるコミュニケーション	4時間10分	5-①、5-②、5-③	コミュニケーションの意義や目的、技法等を説明する。事例を通し、利用者及び家族の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、心身機能に合わせた配慮の必要性等について討議する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護におけるチームのコミュニケーション	2時間30分	5-④	記録の種類や報告の留意点を説明し、専門職種でのコミュニケーションの重要性を認識させる。	
<b>6 老化の理解（6時間40分）</b>				
老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間20分	6-①	老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴や、日常生活への影響を説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
高齢者の健康	3時間20分	6-②	高齢者に多い病気の生活上の留意点を説明する。疾病の症状等についての具体例を上げ、その対応について討議する。	
<b>7 認知症の理解（6時間40分）</b>				
認知症を取り巻く状況	1時間40分	7-①	認知症ケアの理念や利用者中心のケアについて説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1時間40分	7-②、7-⑤	認知症の概念や、原因疾患と原因に応じたケアのポイント及び健康管理について説明する。	
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間30分	7-③、7-④、7-⑥、7-⑦	認知症の人の生活障害や心理・行動の特徴について説明し、事例を通して、認知症の利用者への対応方法や生活支援、コミュニケーション方法について討議する。若年性認知症の特徴について説明する。	
家族への支援	50分	7-⑧	認知症の受容過程での援助や介護負担を軽減するための方法等について説明する。	
<b>8 障害の理解（3時間20分）</b>				

障害の基礎的理解	1時間40分	8-①	障害の概念とICF、障害者福祉の基本理念について説明し、場面に応じたICFの活用について討議する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	50分	8-①、8-②	身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身の機能障害について説明し、かかわりにおける注意点や支援方法について討議する。	
家族の心理、かかわり支援の理解	50分	8-②	家族における障害受容の支援方法や介護負担の軽減について説明する。	
<b>9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間50分）</b>				
<b>■ 基本知識の学習 10時間</b>				
介護の基本的な考え方	2時間30分	9-②	高齢者の生活をイメージできるように具体例を提示し、理論に基づく介護や法的根拠に基づく介護について説明する。介護予防の考え方や方法を説明する。	「基本知識の学習」の最後の1時間を使い、基礎的知識の理解度について確認するため、筆記による小テストを実施する。 →70点未満の者に対しては、補講を実施する。
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2時間30分	9-④	人の記憶の構造や意欲、生きがい等こころのしくみの基礎知識について説明し、事例を通し、こころの持ち方が行動に与える影響や、からだの状況がこころに与える影響について討議する。	
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5時間00分	9-⑤	人体の各部や神経、内部器官等からだのしくみの基礎知識について説明し、ボディメカニクスの活用について模範動作を見せる。利用者の観察ポイントやこころとからだを一体的に捉える視点について説明する。	
<b>■ 生活支援技術の学習 54時間10分</b>				
生活と家事	5時間50分	9-①、9-⑥	家事援助に関する基礎的知識について説明する。高齢者の生活の様子をイメージできるように、事例検討を行う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
快適な居住環境整備と介護	3時間20分	9-①、9-③	快適な居住環境について説明する。高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する支援方法を説明する。	
整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5時間50分	9-⑦	1時間40分は介護技術に関する講義を行い、残り4時間10分で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す事例に基づいて実施)	次の①及び②により評価を行う。 ①介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。 ②研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	11時間40分	9-⑧	3時間20分は介護技術に関する講義を行い、残り8時間20分で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)	
食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5時間50分	9-⑨	1時間40分は介護技術に関する講義を行い、残り4時間10分で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)	
入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5時間50分	9-⑩	1時間40分は介護技術に関する講義を行い、残り4時間10分で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)	
排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5時間50分	9-⑪	1時間40分は介護技術に関する講義を行い、残り4時間10分で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)	
睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間40分	9-⑫	3時間20分は介護技術に関する講義を行い、残り3時間20分で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)	
死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	3時間20分	9-⑬	終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみについて説明し、事例を通して死に至る過程における支援について討議をする。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
<b>■ 生活支援技術演習 11時間40分</b>				
介護過程の基礎的理解	5時間50分	9-①、9-②	介護過程の目的・意義・展開、チームアプローチについて説明し、事例を通して課題分析や計画立案等を行う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
総合生活支援技術演習	5時間50分	9-②、9-⑦、9-⑧、9-⑨、9-⑩、9-⑪、9-⑫	整容演習で用いた事例と同様の事例を使用する。生活の各場面での介護について、一連の生活支援を提供する流れや技術(3時間20分の実技演習を行う)、視点について討議及び演習を行う。	介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認を行い、介護技術の習得度に係る評価を行う。
<b>10 振り返り（4時間10分）</b>				
振り返り	2時間30分	—	研修を通して学んだことや今後継続して学ぶべきことについてワークシートにまとめ、提出させる。	評価なし
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間40分	—	継続的に学ぶべきことについて考え、討議する。具体的に、研修修了後の継続的な研修がイメージできるよう、事例を紹介する。	
合計	135時間			